

各 位

三重県病害虫防除所

令和 7 年度病害虫発生予報第 7 号

このことについて、下記のとおり発表します。

I 予報の概要

農作物名		病 害 虫 名	発生量 (平年比)	発生時期 (平年比)	記載 ページ	備考
作物	イネ	イネミズゾウムシ	多	－	2	
	コムギ	赤かび病	平年並	平年並	2	
果樹	カンキツ	そうか病	平年並	－	3	
		かいよう病	平年並	－	3	
		ミカンハダニ	やや多	－	4	
	ナシ	黒星病	やや少	－	4	
		赤星病	やや少	－	5	
茶	チャ	カンザワハダニ	やや少	－	6	
		チャノホソガ	－	やや早	6	
野菜	イチゴ	灰色かび病	平年並	－	7	
		うどんこ病	平年並	－	7	
		ハダニ類	やや多	－	8	
	キャベツ	菌核病	やや多	－	8	

Ⅱ 予報

イネ

1 イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生活消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月	4 月		
				下旬	上旬	中旬	下旬
多	—	中	普通				成虫誘殺数 

(2) 予報の根拠

- 1 か月予報（3 月 12 日発表）によると、気温は高く降水量は平年並か少ない予想（+）
- 予察灯（水田・松阪市、令和 7 年 7 月第 1 半旬から 9 月第 2 半旬）では、誘殺数は 179 頭（平年 97 頭）と多（+）
- 巡回調査ほ場（令和 7 年 8 月）では、発生ほ場率 7.5%（平年 4.5%）と多、払い落とし虫数 0.16 頭（平年 0.07 頭）と多（+）
- 昨年の予察灯の誘殺数を重視して、越冬虫数、予想発生量ともに多と考えます。

(3) 防除対策

- 近年、実害は少ないですが、移植後の発生状況に応じて防除してください。
- 常発ほ場では、箱施用剤による予防を行ってください。

コムギ

1 赤かび病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生活消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月	4 月		
				下旬	上旬	中旬	下旬
平年並	平年並	小	普通			出穂期 ↓	開花期 ↓ 感染 発病程度 

(2) 予報の根拠

- 1 か月予報（3 月 12 日発表）によると、気温は高く降水量は平年並か少ない予想（±）
- 伊勢平坦部の 11 月上旬播種「あやひかり」の出穂は 4 月上旬から始まると予想されます。（±）
- 現在の生育状況および今後の気象条件から、予想発生量は平年並と考えます。

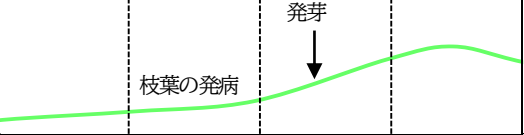
(3) 防除対策

- 生育予測システム（11 月 14 日播種・あやひかり）によると、3 月 16 日時点の予測で生育は平年より 4 日早いため、ほ場をよく観察して、開花始めから開花盛期に薬剤を散布してください。
- 複数回防除を基本とし、2 回目防除は 1 回目防除の 7 から 10 日後に行ってください。

カンキツ

1 そうか病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生病消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月 下旬	4 月 上旬	4 月 中旬	4 月 下旬
平年並	—	小	普通				

(2) 予報の根拠

- 1 か月予報(3 月 12 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+)
- 県予察ほ(御浜町、興津早生、無防除)では、昨年 7 月中旬の春葉発病率 97.0%(平年 87.4%)と多 (+)
- 一般ほ場では、昨年 8 月の発生量はやや少 (—)
- 巡回調査ほ場(3 月第 1 週)では、旧葉での発病葉率 0.15%(平年 0.03%)とやや多の傾向、発病度 0.03(平年 0.009)とやや多の傾向 (+)
- 昨年の一般ほ場での発生量はやや少であり、今後の気象条件から、予想発生量は平年並と考えます。

(3) 防除対策

- 1 昨年に果実での発病がみられたほ場では、発芽期防除を実施してください。
- 2 春葉が感染する期間は発芽直後から伸長停止期までです。
- 3 越冬病斑の見られる枝葉は剪除して、ほ場外に持ち出し適切に処分してください。

2 かいよう病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生病消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月 下旬	4 月 上旬	4 月 中旬	4 月 下旬
平年並	—	温州 小 中晩柑 小	温州 低 中晩柑 普通				発病程度 

(2) 予報の根拠

- 1 か月予報(3 月 12 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+)
- 巡回調査ほ場(3 月第 2 週)では、温州みかん旧葉での発病葉率 0%(平年 0.17%)と平年並の傾向、中晩柑類旧葉での発病葉率 1.7%(平年 5.9%)と少 (—)
- 一般ほ場では、中晩柑類旧葉での発生量が平年並(±)

4) 温州みかんでは、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。

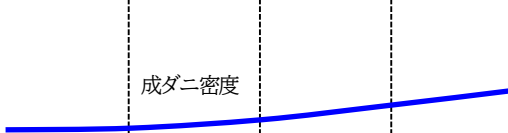
中晩柑類では、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。

(3) 防除対策

- 1) 越冬病斑が認められる中晩柑ほ場では、発芽前防除を実施してください。
- 2) 夏秋梢等の発病枝葉は早く剪除し、ほ場外に持ち出し適切に処分してください。
- 3) ボルドー液とマシン油乳剤の近接散布による薬害に注意してください。

3 ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生活消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月	4 月		
				下旬	上旬	中旬	下旬
やや多	—	中	普通				

(2) 予報の根拠

- 1) 1 か月予報（3 月 12 日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想（+）
- 2) 県予察ほ（御浜町、2 月中旬、興津早生）では、寄生虫数は無防除区 7.8 頭／葉（平年 15.3 頭／葉）とやや少、慣行防除区 0 頭／葉（平年 2.0 頭／葉）と少（-）
- 3) 巡回調査ほ場（3 月第 2 週）では、寄生虫数 0.17 頭／葉（平年 0.28 頭／葉）と平年並の傾向、寄生葉率 5.2%（平年 3.0%）と多（+）
- 4) 一般ほ場では、発生量はやや多（+）
- 5) 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。

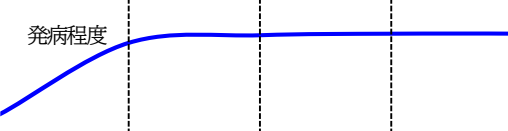
(3) 防除対策

- 1) 成虫が 1 葉当たり 1 頭前後確認されたら、薬剤防除をしてください。
- 2) マシン油乳剤を散布していないほ場や現在発生が認められるほ場では、今後の増加に注意してください。

ナシ

1 黒星病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生活消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月	4 月		
				下旬	上旬	中旬	下旬
やや少	—	小	普通				

(2) 予報の根拠

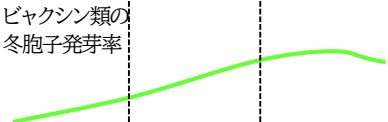
- 1) 1 か月予報（3 月 12 日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想（+）
- 2) 巡回調査ほ場では、昨年 9 月の発病葉率 0%（平年 0.3%）と少（-）
- 3) 一般ほ場では、昨年 10 月の発生量は少（-）
- 4) 昨年秋の発生量は少であり、今後の気象条件から予想発生量はやや少と考えます。

(3) 防除対策

- 1) りん片や新梢基部に発病が確認されたら、すぐに防除を実施してください。なお、発病したりん片は、基部から切除してほ場外で処分してください。
- 2) 例年発生が多いほ場では、早くから樹体の観察を怠らないようにしてください。

2 赤星病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量 程度	要防除 ほ場率 平年比	発生病消長の一例			
	平年比			3 月 下旬	4 月 上旬 中旬 下旬		
やや少	—	小	普通				

(2) 予報の根拠

- 1) 1 か月予報（3 月 12 日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想（±）
- 2) 巡回調査ほ場では、昨年 6 月の発病葉率 1.3%（平年 1.0%）とやや多（+）
- 3) 一般ほ場では昨年 5 月の発生量はやや少（-）
- 4) 昨年の一般ほ場における発生状況および今後の気象条件から、予想発生量はやや少と考えます。

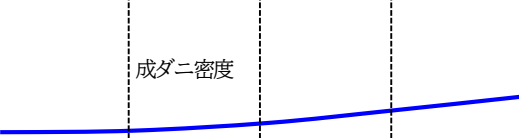
(3) 防除対策

- 1) 赤星病の防除時期は、黒星病の防除適期と重なります。
- 2) 特に開花期前後の防除が重要なので、各薬剤の特性を理解して両方に登録のある薬剤を使用してください。例年発生が多いほ場では、早くから樹体の観察を怠らないようにしてください。

チャ

1 カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生活消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月	4 月		
				下旬	上旬	中旬	下旬
やや少	—	小	普通				

(2) 予報の根拠

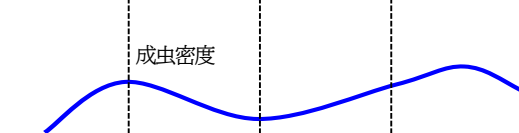
- 1) 1 か月予報（3 月 12 日発表）によると、気温は高く降水量は平年並か少ない予想（＋）
- 2) 県予察ほ（3 月上旬）では、産卵確認は 2 月 27 日（平年 3 月 1 日）と平年並、寄生葉率 0.0%（平年 5.8%）と少、寄生虫数 0 頭／葉（平年 0.19 頭／葉）と少（－）
- 3) 巡回調査ほ場（3 月第 1 週）では、発生ほ場率 5.6%（平年 50.6%）と少、寄生葉率 0.2%（平年 3.1%）と少、寄生虫数 0.01 頭／葉（平年 0.11 頭／葉）と少（－）
- 4) 一般ほ場では、発生量は少（－）
- 5) 現状の発生量は少と考えられますが、今後の気象条件から予想発生量はやや少と考えます。

(3) 防除対策

- 1) 産卵は 2 月 27 日に確認され、平年並（2 月下旬から 3 月上旬）です。
- 2) 裾葉裏に生息しているので、薬剤が付着するよう丁寧に散布してください。
- 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤使用は年 1 回としてください。

2 チャノホソガ

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生活消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月	4 月		
				下旬	上旬	中旬	下旬
—	やや早	—	—				

(2) 予報の根拠

- 1) 県予察ほフェロモントラップでは、初飛来は 3 月 5 日（平年の初飛来は 3 月 8 日）とやや早（発生時期（－））
- 2) 巡回調査ほ場（3 月第 1 週）では、成虫は未確認（平年 未確認）（発生時期±）
- 3) 県予察ほの結果から、予想発生時期はやや早と考えます。

(3) 防除対策

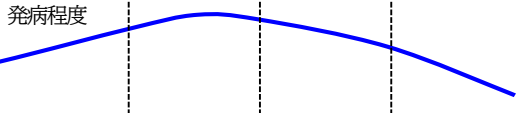
- 1) 新芽の葉裏に産卵しますので、薬剤が付着するよう丁寧に散布してください。

2) 萌芽は例年 4 月上旬です。萌芽後は新芽への産卵や幼虫発生に注意してください。

イチゴ

1 灰色かび病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月	4 月		
				下旬	上旬	中旬	下旬
平年並	—	小	普通				

(2) 予報の根拠

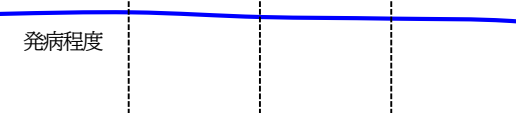
- 1 か月予報 (3 月 12 日発表) によると、気温が高く、降水量は平年並か少ない予想 (±)
- 2 巡回調査ほ場 (3 月第 2 週) では、発病株率 0 % (平年 0.8 %) と平年並の傾向、発病果率 0.7 % (平年 0.7 %) と平年並 (±)
- 3 一般ほ場では、発生量はやや少から平年並 (概して平年並) (±)
- 4 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。

(3) 防除対策

- 1 病勢が進行すると防除が困難になります。ほ場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めてください。
- 2 20℃前後の温度と多湿条件で発生が多くなります。ハウス内の温度・湿度管理に注意してください。
- 3 発病部位は伝染源となるため、こまめに取り除いてほ場外に持ち出し適切に処分してください。
- 4 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

2 うどんこ病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月	4 月		
				下旬	上旬	中旬	下旬
平年並	—	中	普通				

(2) 予報の根拠

- 1 か月予報 (3 月 12 日発表) によると、気温が高く、降水量は平年並か少ない予想 (±)
- 2 巡回調査ほ場 (3 月第 2 週) では、発病株率 0 % (平年 0 %) で平年並、発病果率 0 % (平年 0.04 %) で少 (±)

3) 一般ほ場での発生量は平年並 (±)

4) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。

(3) 防除対策

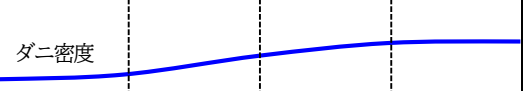
1) 軟弱徒長すると発生が多くなります。適切な温湿度管理、灌水管理に努めてください。

2) 発病部位は伝染源となるため、見つけ次第速やかに取り除いてください。

3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

3 ハダニ類

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生病消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月	4 月		
				下旬	上旬	中旬	下旬
やや多	—	中	高				

(2) 予報の根拠

1) 1 か月予報 (3 月 12 日発表) によると、気温が高く、降水量は平年並か少ない予想 (+)

2) 巡回調査ほ場 (3 月第 2 週) では、寄生株率 0.4% (平年 6.3%) と少、発生程度 0.1 (平年 3.3) と少 (—)

3) 一般ほ場では、発生量は少から平年並 (概して平年並) (±)

4) 現状の発生量は一般ほ場での状況を重視して平年並と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量はやや多と考えます。

(3) 防除対策

1) 薬液がかかりやすくなるよう下葉を除去し、葉裏までしっかりと散布してください。

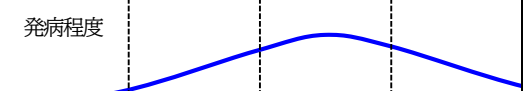
2) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避けてください。また、抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用してください。

3) 薬剤散布では、天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して薬剤の選択を行ってください。

キャベツ

1 菌核病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生病消長の一例			
	平年比	程度	平年比	3 月	4 月		
				下旬	上旬	中旬	下旬
やや多	—	中	普通				

(2) 予報の根拠

- 1) 1 か月予報（3 月 12 日発表）によると、気温が高く、降水量は平年並か少ない予想（±）
- 2) 巡回調査ほ場（3 月第 2 週）では、発病株率 0%（平年 1.3%）と平年並の傾向（±）
- 3) 一般ほ場では、発生量は平年並からやや多（概してやや多）（+）
- 4) 現状の発生量は一般ほ場での状況を重視してやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。

(3) 防除対策

- 1) 発病株は伝染源となるため、菌核が形成される前に抜き取ってほ場外に持ち出し適切に処分してください。
- 2) 葉の傷口や生育の衰えた下葉から病原菌が感染し、結球期頃から発生が目立ち始めます。結球始期の予防散布を基本としてください。
- 3) 薬剤散布は、初発部位である株元を中心に丁寧に行ってください。

Ⅲ 参考

1 予報の見方

(1)「作物別の状況」の見方

1) 発生時期（平年比）

平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日 数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平 年 発 生 日	1	2	3	4	5	6	
評 価	早	やや早			平年並				やや遅			遅			

2) 発生量（平年比）

発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

	平年値 ↓					
度 数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評 価	少	やや少	平年並		やや多	多

3) 発生量（程度）

発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きいが平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

平年ほとんど発生がないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量

「平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

4) 要防除は場率（平年比）

防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半のほ場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

(2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

IV 気象データ

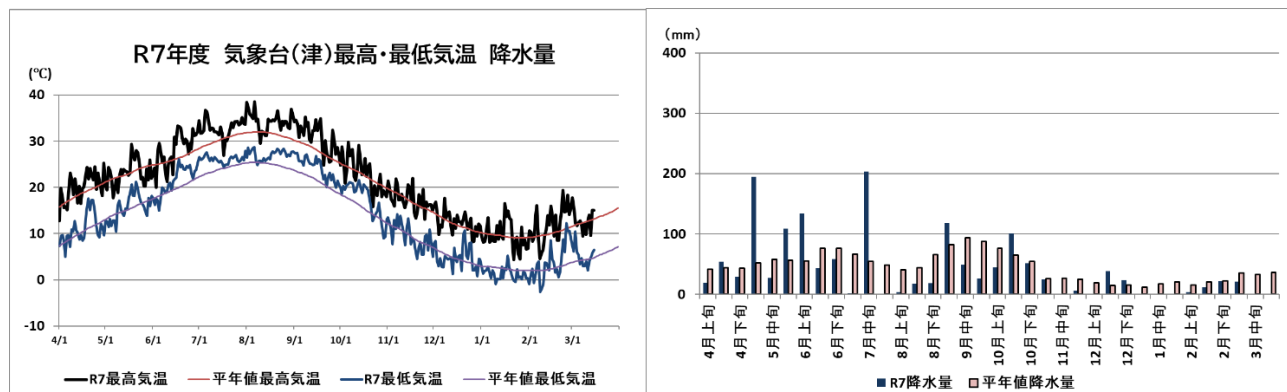
東海地方1か月予報（令和8年3月12日 名古屋地方気象台発表）

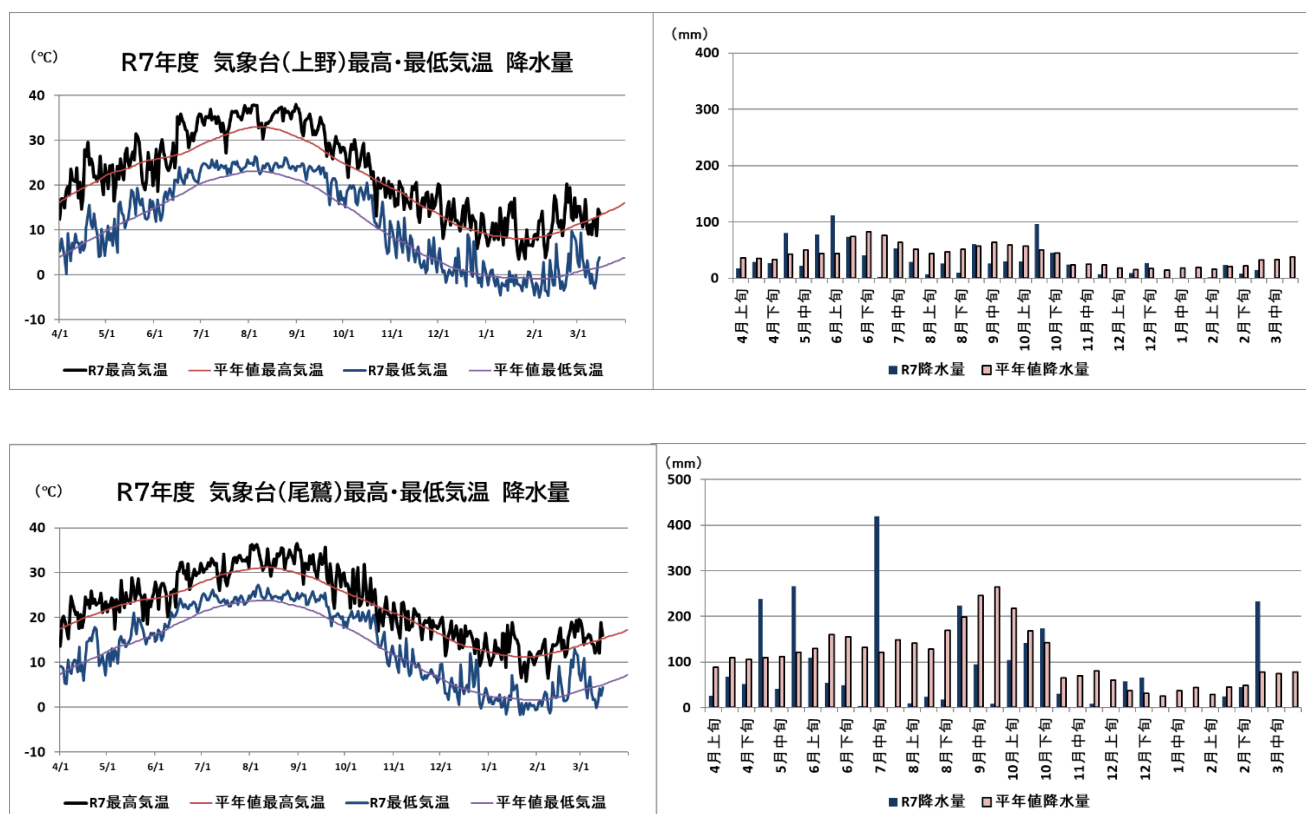
- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。
- ・期間の前半を中心に高気圧に覆われやすく、低気圧や前線の影響を受けにくいいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。
- ・天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気象の日別推移

（気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成）
（3月15日まで）

1 週目 3 月 14 日～20 日	高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
2 週目 3 月 21 日～27 日	天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
3～4 週目 3 月 28 日～4 月 10 日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。





V お知らせ

1 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2 発表日

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回	4月24日(木)(済み)	第2回	5月22日(木)(済み)
第3回	6月19日(木)(済み)	第4回	7月23日(水)(済み)
第5回	8月21日(木)(済み)	第6回	10月17日(金)(済み)
第7回	3月19日(木)(今回)		

3 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病虫害発生予報利用の手引き」があります。
下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001194107.pdf>

5 メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

農林水産省の「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

7 IPM（総合的病虫害・雑草管理）実践指標について

三重県ではIPMを実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病虫害防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全・流通課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>

問い合わせ先 三重県病虫害防除所 TEL 0598-42-6365 FAX 0598-42-7568 E-mail byogai@pref.mie.lg.jp
